

遺骨返還求め提訴へ

琉球人研究者ら 京大相手取り

戦前の研究者が今帰仁村内の墓から持ち帰った琉球人の遺骨を巡り、龍谷大学の松島泰勝教授らが18日までに、遺骨を収蔵している京都大学に返還を求める訴えを京都地裁に起こす方針を固めた。祖先を祭る権利を侵害されているとして、第一尚氏の直系や関連の門中、利害関係者らを原告に、今夏の提訴を目標に支援を呼び掛ける。

照屋寛徳衆院議員や松島教授が代表の「琉球民族遺

骨返還研究会」の支援者が、既に原告になる意向を示しているという。

松島教授は「遺骨を奪い、返還の求めや問い合わせにも応じない京都大学と日本の植民地主義の実態を明らかにしたい」としている。

アイヌ民族の遺骨を保管している北海道大学とアイヌ民族側が遺骨の返還で和解した訴訟を参考に、大阪の弁護士と協議を進めている。